

第4回史跡古津八幡山遺跡保存活用計画検討委員会会議概要

○日時：平成28年9月21日（水）午後1時30分～

○会場：新潟市新津美術館レクチャールーム

○出席委員：7名（小林圭一委員・鈴木俊成委員・竹之内佳子委員欠席）

※文化庁記念物課 山下信一郎調査官出席

・事務局一文化財センター

・関係科等一秋葉区役所産業振興課

○議事について

(1) 史跡古津八幡山遺跡保存活用計画の策定について

a. 前回の検討内容と修正箇所について

①整備・活用の目次構成の順番について

・従来、保存が中心に考えられてきたが、昨今の活用が重要視される状況になってきた。遺跡整備のてびきでは、整備・活用としていたが、内容が混同することがみられた。その後のマネジメント報告書において、再検討し、文化財保護法の趣旨に則して、保存と活用が重要な両輪であることが改めて確認された。その目的達成の技術的手段として、整備が存在すると位置づけた。このような経緯と経過のため、保存・活用・整備の順で示している。

・両輪は重要であるが、依然として保存による整備が重要であり、順番としては、保存・整備・活用の順が自然に感じる。最終的には文化庁と新潟市の判断にゆだねる。

②本質的価値について

・「西日本的な」という文言が加わった経緯とその理由。さらに、その意味は何か。また、村上市山元遺跡との関係で「日本海側最北域の確実な例」という文言はどうなのか。

・西から東への波及というイメージを持つことから「西日本的な」という文言はあったほうが良い。

c. 活用の現状・課題と方向性・方法について

①展示について

・常設展示を3年周期で展示内容を検討する根拠はなにか。リピーターを考えるともっと頻度を多くしてもいいのではないか。

・最新の成果は適宜変更し、加えて一定周期で展示の枠組みを変更していく方向性は問題ない。しかし、3年周期は長すぎるということではなくて画期的と言える。早く検討を進める必要がある。

②イベントについて

・東区牡丹山諏訪神社古墳で古代まつりのイベントを開催する予定である。そこでは、市民参加の円筒埴輪作りを行い、それを用いた葬送儀礼の復元やマスコットキャラクターを用いた顔出しパネルの展示などを行なう。定期的なイベントとして地域おこしに活用していくことも検討している。また、地元企業とタイアップしたお菓子なども作成している。他に高校生の活用では高校の放送部が取材にきており、コンクールで発表している。

③小学校について

- ・小学校に対して史跡などへの見学を必須とできないか。
- ・小学校の自主性があるので、難しいのではないか。市の方針として強く打ち出せないと実現が難しい。

④コンクール・コンテストについて

- ・コンテスト等を行なう場合などは協賛団体を巻き込んで市長賞等のきちんとした賞を用意し、評価できる体制をつくと良い。

⑤研究の公募について

- ・研究では研究テーマを公募して進めてみてはどうか。津南町では研究費用として10万円で公募しており、経費弁償を保障するのではなく、研究を後押しするコンセプトで活発に行なわれている。

⑥周辺施設について

- ・地域の周辺施設との連携について、遺跡ウォーキングを開催する予定であるが、この地域は歩いて廻れる範囲で、多くの施設等がある。講演会の会場に新潟県埋蔵文化財センターを利用したり、半日コースや一日コースなどのコースを設定することが考えられる。各館の来場者が周辺施設も利用するように古津八幡山遺跡を中心に活用をはかっていただきたい。
- ・地域の人々は散歩コースとして利用している。さらに、マラソンコースなどのスポーツを行なう場所にできないか。そのために、シャワールームなどの設備や距離を示す標示をできないか。また、食事処や休憩所などができないか。

⑦市役所について

- ・職員研修について、鳴門市では新人研修で必ず市の遺跡を巡るようにしている。新潟市でもそのような取り組みを実施できないか。
- ・長野県茅野市は、積極的に縄文を取り込んでいる。市民全員学芸員という標語があったり、昨年から小学校のカリキュラムとして縄文の内容が必須となっている。

⑧全体について

- ・課題に合わせて方向性などが多岐にわたり目配りされておりよく検討されている。しかし、現段階では課題を挙げているだけであり、方向性への具体的な内容や覚悟・気迫がまだ見えないため、今後強くメリハリのきいた実際に実現が可能な内容を示していただきたい。

⑨アンケートについて

- ・弥生の丘展示館の利用者数だけでなく、展示館内でどの空間を利用しているかなどはどのように把握しているか。
- ・古津八幡山遺跡の利用者は、平成28年度から弥生の丘展示館脇にカウンターを設置して把握している。まだ正確ではないが、弥生の丘展示館の利用者が全て遺跡まで足を運ぶわけではない。また、館内の利用については数は把握していないが、年齢層などによって利用傾向に差が見られると考えられる。
- ・地元と観光として利用の差や周辺施設からの利用などの違いが分かると今後の参考になると考えられるため、今後も継続的にアンケートを実施したほうが良い。
- ・弥生の丘展示館に設置しているアンケートの中に遺跡を利用したのかなどの項目を加えれば良い。

d. 運営・体制の基本方針、現状・課題と方向性・方法について

①弥生の丘展示館について

- ・弥生の丘展示館の常勤職員の配置は、今後の計画を実現し、運営するうえで絶対に必要なものである。極めて重要な方向性のため、委員会の意思として明示していただきたい。
- ・図などには線の長さなどや位置関係で作成者が意図しない意味に取られる場合があるため、概念図などは理解を促す上で必要であり、作成時には分かりやすさと細かい点にまで注意して作成ほしい。

②運営に係る庁内体制について

- ・運営に係る庁内体制における現状で「委員として金津小学校・金津中学校の校長先生に入ってもらった」という文言はこの記載にふさわしいのか。

③他機関・組織などとの運営について

- ・「他機関・組織などとの連携・協力体制」という文言にすべきではないか。
- ・市の内外に多くの組織が係わってくるため、有識者の会議とは別に、市の内外の組織が参加する古津八幡山遺跡に特化するか、周辺施設を含めた横断的な協議会を組織してもらえば連絡・調整がしやすいのではないか。また、核となるのは市の内部になるため、市の中で横断的な連絡会議を組織して、そのような市の組織が目に見えるようにしていけたら良いのではないか。

④運営体制図について

- ・古代館はどのような施設か。
- ・花の湯館ではトレイルランニングなど周辺で運動した人に汗を流す場を提供したいという考えがあるようである。花の湯館は健康福祉課の所管のため、そういったところとの連携も考えられるのでないか。
- ・新潟市には各区に分かれるため、古津八幡山遺跡が中心になるだけでなく、秋葉区が中心となる別のネットワークによる秋葉区中心の企画に参加するという連携もあるべきではないか。秋葉区との連携をもっと大きく取り扱っても良いのではないか。
- ・周辺の施設・機関にJR東日本が入っているのはなぜか。
- ・観光関係の機関では、フードコミッションなども考えていけば良いのではないか。また、市民にボランティアガイドや友の会があると大変良い。十日町市の笹山縄文祭りでは、そういった人々が参加して盛況であった。
- ・ボランティアガイドは解説のみを行なっているのか。体験学習の補助等をしているか。旭町展示館には友の会があり、その人々には様々な活動を補助してもらっている。
- ・現状の運営体制図では古津八幡山遺跡や弥生の丘展示館が見えない。古津八幡山遺跡を主体とした運営体制図とするべきである。同じく新潟市文化財センター運営協議会だけでなく、古津八幡山遺跡を主体とした運営協議会が必要である。